

「高崎市地域福祉計画案」パブリックコメントの結果

○意見等の募集期間：平成21年1月5日～平成21年2月4日

○意見等の受付件数：1人 9件（提出方法の内訳：郵便1人）

1. 寄せられた意見等を内容により整理し、意見等の概要として掲載しています。

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	小六、中二の生徒たちが、授業の一環として農繁期などに農作業の手伝いにホームステイの形で参加するのはどうでしょうか。	小・中学生が農作業の手伝いをするのは、日ごろ、土に触れる機会の少ない子どもたちにとって、とても有意義な取り組みであると考えております。いろいろな機会を捉えて、農業体験や自然体験の実施を検討したいと思います。 しかしながら、農繁期に農家が小・中学生を受け入れるのはなかなか難しく、授業の一環として実施するのは、慎重に検討すべきものと考えています。
2	民生委員さんが、どんな風に各町内のひと達と関わられているのか、知りたいと思います。独居生活者に対する訪問などで、市の人的な制限の改善が可能であれば、気力も体力も弱まった独居老人の生活などにも目を向けて上げられ、悲惨な事例の減少につながるかと考えます。	民生委員は、市民の皆様が安心して暮らしていけるよう、子育てや介護など様々な相談に応じていただいています。主な活動として、一人暮らしの高齢者や障害者の方々に対する相談・見守り・友愛訪問・安否確認などがあります。 これからの高齢社会に向けて、市は、民生委員の皆様と協力して、高齢者の方が生きがいを持ち、安心して生活できる地域づくりに取り組んでいきたいと考えております。
3	市が行うイベントは若者向けでしかないようです。村祭りのノスタルジーを求めるには、市の規模が大きくなり過ぎてしまったようです。	村祭りなどに代表される地域行事の充実は、地域福祉を推進する上で大変有効な取り組みであり、市としましても積極的に進めて参りたいと考えております。計画の中でも、「2-② 人と地域をつなぐ交流の場づくり」で、「地域行事の充実」などの取り組みを掲げており、今後も市民の皆様と一緒に、これらの問題に取り組んでいきたいと考えております。
4-1	きちんとした自分の考えを持ち、他者への関心（他者への寛容さや個人の多様性を認められること）を持つ子供達を育む意味からも、教育現場ではスピーチの時間が重要視されるべきと考えています。 その為にも、携帯依存の若年層に対し、教育現場で改善策を講じて頂きたいと思えます。	子どもたちの規範意識の欠如、不登校の増加など、人とかかわりがうまくできないことに起因する問題が表面化している現在、人とかかわることは非常に重要であると捉えております。そこで、高崎市の学校教育指針の中で、「豊かな人間性の育成」を大きな目標として掲げております。この目標を達成するために「温かい人間関係づくり」を中心的な手立てとして、幼稚園

		<p>教育から取り組んでおります。</p> <p>「スピーチの時間の重視」につきましては、表現力を伸ばす方策として、通常の授業での発言の方法、朝の学級活動の時間に1分間スピーチ、社会科や総合的な学習の時間での発表会等を実施しております。</p> <p>携帯依存への対応につきましては、各学校において、情報モラル教育の徹底に努めております。</p>
4-2	<p>農林業従事者育成を目的とする養成機関を設置できるものでしょうか。</p>	<p>高崎市の食を支える生産現場では、農業者の高齢化、担い手不足等の農業経営における課題も多く、このような状況の中で、安全・安心な食を安定供給する基盤である本市の農業を振興するためには、農林業従事者の育成が必要不可欠であると考えております。</p> <p>高崎市は、新規農業就業希望者のための施設として、倉淵地域において「新規就農者研修施設」を設置しており、地域で農業研修を受けながら最長3年間の居住が可能となっております。</p> <p>また、地域においても、認定農業者や農業生産法人などで、研修・指導を受け入れる体制が、整備されています。</p> <p>林業就業希望者は、危険業務を含むことから、「緑の雇用担い手対策事業」などを活用し、森林組合が受け皿となり、林業作業の実践・研修を行い、就業に結びつけているところです。</p>
5	<p>地域の人たちが集まって、話し合いのできる機会をなるべく多く設けた方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>現在は、町内での交流がとてもさみしく思えます。</p>	<p>住民同士の交流の推進は、地域福祉の推進における柱の一つであり、地域福祉計画の策定に必ず取り入れなければならない項目であると考えております。</p> <p>計画の中でも、「1-② 既存施設などを活用した日常的につどえる場所づくり」や「2-② 人と地域をつなぐ交流の場づくり」で、「住民相互の交流活動の支援・推進」や「人と人との交流の場・情報交換の場づくり」などの取り組みを掲げており、今後も市民の皆様と一緒に、これらの問題に取り組んでいきたいと考えております。</p>
6-1	<p>市内における高齢独居生活者の把握は、どの程度可能なのか。プライバシー問題が絡むと思われませんが、生活保護対象者とは別にどの程度までの調査が可能なのか。</p>	<p>高崎市内におけるひとり暮らし高齢者については、毎年民生委員による「ひとり暮らし高齢者調査」を実施し把握するとともに、70歳以上のひとり暮らしで家に閉じこもりがちな人を対象に、一声かけ運動を実施しています。</p>

6-2	<p>住居についても、高齢者はアパート代の支払い能力、健康上の問題からも不利な条件ばかりかと思いますが、市では既に、この年代の社会的弱者に対するセーフティーネット的対策は着手されてるのでしょうか。新しく市営住宅として用意するのではなく、不動産業者との共同事業の形で、空き家の利用は可能でしょうか。</p>	<p>高齢者世代の住居に対するセーフティーネット的対策については、不動産業者が指定登録機関（群馬県においては、群馬県県土整備部建築住宅課）に高齢者円滑入居賃貸住宅（高齢者という理由だけで、入居を拒否されない賃貸住宅）を登録し、入居を望む高齢者に周知を行うという国の事業があります。現在、高崎市内の不動産業者が物件の登録を行っているところで</p> <p>す。</p> <p>計画の中でも、「1-③ 世代間や住民同士の交流の充実」や「3-⑤ 災害時等における要援護者支援の推進」で、通常時における高齢者と地域住民間の交流の推進などの取り組みを掲げており、今後も高齢者の暮らしやすい地域づくりについて取り組んでいきたいと考えております。</p>
6-3	<p>高齢者人口の増加はどの程度に予想されているのでしょうか。</p>	<p>高崎市における高齢人口は、平成21年1月1日現在73,973人で、総人口に占める高齢者の割合は21.5%ですが、平成26年には高齢人口はおよそ12,000人増加して85,889人に、総人口に占める高齢者の割合も3ポイント増加して24.5%になると予想しています。</p>

◇問い合わせ先：保健福祉部社会福祉課

TEL：027-321-1243

FAX：027-326-8876

電子メール：shakaifukushi@city.takasaki.gunma.jp